

## 9) 豆腐小僧と天然痘

Tofu boy and smallpox

九州歯科大学 竹原直道

Tadamichi Takehara, *Kyusyu Dental College*

舌出しや一つ目の特徴とし、紅葉豆腐を盆に持つ豆腐小僧が最近注目を浴びている。しかし豆腐小僧の化物としての出自は今だ謎とされている。「舌出し」をキーワードに、歯科学への文化史的アプローチを試みてきた演者としては、無関心を装う訳にもいかない。そこで豆腐小僧の図像学的性格分析を行った。その結果、豆腐小僧と、江戸時代の死因の一、二を争う感染症であった天然痘との関係、もっといえば「豆腐小僧は疱瘡神の見立てであった」、ことが明らかとなったので報告する。

### 背景

#### 豆腐小僧

豆腐小僧は1775年から1806年の間に出版された絵入りの草双紙、黄表紙本のなかに初めて登場する。その姿は童形で、頭が大きく、大笠を被り、手に紅葉マーク入りの豆腐（紅葉豆腐）を乗せた盆を持っている。豆腐小僧とは何者なのか、なぜ豆腐を持っているのか、その意味は不明とされてきた。

#### 疱瘡絵

当時、江戸では天然痘（痘瘡、疱瘡）が大流行していた。天然痘はウィルス性の感染症で、特に小児の死亡率が高く、運良く死ななくとも、顔にあばたが残り、目に入ると失明した。しかも当時病因は不明で、一旦流行するとす術がなかった。そのため、病除けの民間療法が行われ、疱瘡神の詫び証文、疱瘡踊り、疱瘡送り、疱瘡祝いなどの習俗があった。その一つが疱瘡絵で、紅刷り、天然痘除けの呪力を持つ護符として用いられた。疱瘡絵の絵柄として、桃太郎、金太郎、源為朝など伝説上の武将、みみずく、だるま、でんでん太鼓、鯛車、春駒、犬張子などの玩具が描かれた。無事

天然痘が快癒すると疱瘡絵を川に流す風習があったので、現在残っているものは少ない。

#### 疱瘡神

一方錦絵には子供の玩具、強い武将などとともに疱瘡神が描かれたものがある。疱瘡神は天然痘から子供を守る守護神的性格のものと、疫病神とがあり、別々の神の場合もあるが、同一神に両方の性格を兼ね備えるものもあり、その性格は時代や場所によっても複雑に異なっている。

### 結果と考察

いくつかの黄表紙本の豆腐小僧と、描かれた疱瘡神図像の着物の柄を比較したところ、いずれもその着物に共通の玩具模様が認められ、みみずく、だるま、でんでん太鼓、春駒、犬張子等々の疱瘡絵のモチーフが、豆腐小僧の着物の柄に描かれていた。このことから豆腐小僧は疱瘡神のパロディーとして黄表紙本に登場したものと考えられる。つまり豆腐小僧は疱瘡神の見立てであったといえる。

しかしすべての豆腐小僧が疱瘡絵の玩具模様の着物を着ているという訳ではない。そこで、それ以外のファクター、例えば大笠の意味は痘瘡の瘡（かさ）のことではないか、豆腐小僧が持つ酒徳利は酒湯と関係があるのではないか、何故豆腐小僧は童形なのか、紅葉豆腐の意味は、また患者の病衣、豆腐小僧の足指などについても検討した。その結果、着物の柄だけでなく、その他の証拠も豆腐小僧が疱瘡神のパロディーであるとする演者の結論を補強するものであった。

### 結論

豆腐小僧は疱瘡神の見立てだった。